

講演会や新旧母校の訪問も

大学12回生

平成28年11月13日、昭和39年卒業の同期会「三九会」が、2年前の東京開催以来、大分市のオアシスタワーホテルで開催され、全国から41名が出席した。

内女性2名の参加に感謝。受付で衛藤伸一さん(大14回)の協力で作成した卒業時の顔写真を貼付した胸名札を渡したが、52年前の我が身に再会し、それなりの美男・美女振りに一同大いに満足した。

今回は特別企画として講演会を計画、午後4時より講師の大分歴史文化研究会代表 狭間久先生に「重光葵を中心にした大分の偉人達」のテーマで講演を頂き、明治・大正・昭和の偉人、特に戦後処理の重光葵の活躍についてお話しされた。

講演会終了後、大野千代喜アマカメラマンによる記念写真撮影。午後6時よりホテル21階エントラールにて、懇親会を開始。吉弘元信君の司会進行により、開会の挨拶・物故者黙祷、地元幹事を代表して相良浩君より歓迎の挨拶と三九会の今後の開催について提案があり、母校創立100周年の2022年開催を



大分オアシスタワーホテルで開催、41人参加



今も残されている我が通っていた当時の校門柱の前で

最終回とし、その中間で地元幹事で計画することに決定した。東京より参加の小迫邦彦君の発声により乾杯のあと、首藤静子さんの謡曲・田中和夫君の日本舞踊に感動しながら懇親会に入り上野丘時代の話題など盛り上がった。

宴たけなわの中、土屋義方君の指揮による校歌歌斉唱、村上秀義君の中締め挨拶(人生はいつでもこれからのだ)のあと、都町に繰り出しカラオケで更に盛り上がった初日であった。

翌14日、希望者16名、貸切バスで元の母校上野丘、現大分芸術文化短大を訪問、事務局長の

ご説明のあと校内を散策・懐かしい旧校門の門柱前で記念写真を撮り、旦野原に移動した。

大分大学経済学部では大崎美泉学部長や関係者の丁寧なご説明・ご案内で、講義中の教室や四極広場を見学、新築の学生食堂で昼食後大学を後にした。午後2時頃、大分駅に到着、次回の再会を誓って解散し二日間の日程を無事終了した。

なお、今回の開催に当り、昨年春より地元幹事団で数回の打ち合わせを行ったが、これもまたこれで楽しい集いだった。

▼出席者(敬称略)

赤松常好、朝倉和正、足立好範、阿部浩、泉幸彦、伊妻偉昭、伊東利雄、井上征彦、梅崎正人、大野千代喜、大橋英昭、大町尚夫、金子(旧姓江口)祥子、川谷紘基、川野宏之、久保一年、小迫邦彦、相良浩、佐藤泰久、佐藤安弘、猿渡信正、首藤(旧姓工藤)静子、田中和夫、千葉親、土屋義方、堤勲四郎、中野正、野々下俊昭、東節信、広井洋介、廣瀬孝義、藤田博文、藤原宏章、本多廣、眞崎晴行、松田洋三郎、村上秀義、森瀬清博、山崎喜國、山本良熙、吉弘元信

(廣瀬孝義 記)